

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 郡山市立柴宮小学校 】

| | |
|--------------------|---|
| 1 実践テーマ | I ・ V |
| 2 実施対象者 (学年・人数) | 6学年（3クラス 93名） |
| 3 展開の形式 | <p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 総合 体育 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p> |
| 4 目 標 (ねらい) | <p>オリンピック・パラリンピックの目的や種目などを調べたり、実際にパラリンピックの種目を体験したりすることで障害者スポーツへの関心を高める。</p> <p>テーマ</p> <p>「パラリンピック」と「ふくしまの障がい者スポーツ」を学ぼう！楽しもう！応援しよう！</p> |
| 5 取組内容 | <p><障害者スポーツのお話></p>  <p><銅メダルを見せてもらった></p>  |

<ボッチャの体験>



<車いすの体験>



<車いすバスケットボールの体験>



6 主な成果

ボッチャや車いすバスケットボールの体験を通して、障害者スポーツについての関心が高まった。また、調べ学習を通してオリパラ競技の種目、障害について、ホストタウンの文化などの理解が深まった。ホストタウンについては、社会科の学習と関連を図り調べた。

<アンケートの結果から>

子どもたちが東京オリンピック・パラリンピックのことを思っていた以上に分かっていないことに驚いた。今回の経験はとても貴重だった。

東京オリンピック・パラリンピックへの関心が高まった。

パラリンピックの種目数の多さに驚いた。

体験してみると競技の大変さがわかった。

車いすバスケットをまたやってみたい。

銅メダルを触らせてもらって嬉しかった。

| | |
|----------------------------|---|
| <p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p> | <p>今年度初めての実施だったので分からないことが多かったが、子どもたちの体験活動を重視し、いろいろな機会にスポーツ振興課と連携を図り実施してきた。</p> |
| <p>8主な課題等</p> | <p>3種目を体験するということもあり、学校と講師の方の予定が合わず、日程がなかなか決まらなかった。早めに講師の方の予定を聞いたり、学校の予定を知らせたりして調整を図る必要があった。また、体験する内容を早めに厳選する必要があった。</p> |
| <p>9来年度以降の実施予定</p> | <p>今年度初めての実施ということもあり、対象学年を6学年に絞った。来年は、学年の幅を広げたり、体験したことを他の学年にも伝えたりする機会を設定していきたい。また、今年同様体験活動を中心に継続して実施していきたいが、ボッチャや車いすバスケットボール以外の種目も体験できるようにしたい。</p> <p>体験活動の中にホストタウンの文化に触れる活動も取り入れていきたい。</p> <p>ボッチャの道具を市のスポーツ振興課より借用しているので、各学年でできるよう伝達していきたい。</p> |